

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	特定非営利活動法人だいご		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月 1日		～ 令和8年 4月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	令和8年 4月 1日		～ 令和8年 4月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 5月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験が積んだ保育士がそろっている。日々の活動内容を工夫しており、一人ひとりの特性を見極め変化のある内容にしている。年単位での長期的な関わりによって子どもとの信頼関係も良好に築けている。排泄や食事、更衣など直接介助もスムーズにできる。	子どもたちとの会話やかかわりの中で特性や強みを把握し、支援に生かせるようにしている。日々の心身の体調にも考慮し、活動案を複数用意し本人にとって負担のない活動になるようにしている。子どもたちと一緒に壁面作りを行い季節の変化の学びにも繋げられるようにしている。	日頃から職員同士で情報交換を行い、支援目標に沿った支援を保育士以外の職員も出来るようにしていく。保育士のスキル向上、誰もが状況に応じて臨機応変に対応出来るようにする。
2	家族が協力的であり、職員との信頼関係が良好である。地域の特性上、家庭の様子分かりやすく関わり方の工夫ができる。保護者全員が特定非営利活動法人だいごの会員になっているため通信やお知らせを通して情報伝達しやすい。	家庭訪問や電話相談など、情報交換する機会を多く持つようにしている。家族と比較的連絡を取りやすい時間を把握して、緊急時以外はその時間に合わせて連絡をとりあっている。家庭に合わせて連絡の回数も調整している。	どの職員にも声が掛けられるよう、保護者との関係性を良好に保つ。家族会や家族の研修会などを開催したり、広報誌やお知らせなどを通して情報提供を行う。
3	地域に溶け込んだ活動をすることができる。地域の施設のようにイベントへの参加ができる。コミセン・体育館・茶の里公園・おやき学校などの利用や、七夕・ひな祭り・芸術祭の見学の参加など、地元ならではの活動ができる。	町が主催している芸術祭に、集団活動や個別活動で取り組んだ作品を発表している。個々の発達に応じてどんなことに取り組んでいくか、職員がどの部分に手を貸すかなど毎回話し合いながら取り組んでいる。家族にも作品を見に行ってもらい、子どもたちの活動に理解を深めてもらう努力をしている。	地域ボランティアの活用を広げる。地域の児童施設や介護施設などと交流する機会を設ける。知り合いなどから情報提供を通して、ユニークな活動をしている個人や団体との交流を進める

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子育て中の職員が多く、学校行事や子どもの病気等で休みを取る時期が重なることがある。小規模事業所で職員の数に限りがあるので、送迎を頼まれても断ることがある。	子育て中の職員は子どもの病気や学校行事等で休むことが多くなってしまう。そのため数名が重なると職員数が減ってしまう。	パート職員の出勤を勤めて、就労時間についても相談するようにする。
2	特別支援学校の高等部が隣の市にあるため、登下校に時間がかかる。事業所からバス停が遠く送迎に時間がとられ、活動時間が少なくなってしまう。	事業所から自宅への送迎時間を考慮しても、放課後の活動は限られたものになっている。個別活動を主に行い、集団活動にかかる時間が少なくなってしまう。	毎日のやることと特別な活動に使う時間を工夫して確保する。短い時間なので、本人のやりたいことを優先し、負担なく過ごせるようにする。
3	当事業所のある地域が過疎地域であり人口減少に伴い、子どもの数も減っている。そのため障害児の減少もみられる。	特別支援学校に入学する児童が減っている。地域の特性上、障がい児の支援や放課後等デイサービスの周知が必要な家庭に届いてなく理解もされにくい	定期的にパンフレット配布や各学校への周知を行う。保育園や幼稚園、小学校等との連携を図る。